

広報かわにし

発行所	川西町	町役場		
発行者	川西町	吉作社		
編集人	金子南	幸風		
印刷所	白部	1部		
人口	1日	現在		
男女計	1	4.6	4.2	5.9
世帯数	7.4	1.6	6.1	6.1
	2.75	9	9	9

新年賀謹



教育と産業に重点を

上野小屋体が新予算のカギ

町長 村 壮 吉



明けましておめでとつございませう。一年の計は元日にあり。と今年頭に於いて抱負のあらましを申しあげ、みなさまのご支援を仰ぎたいゆえんいたします。

新年度の町計画を要約いたします。すなわち、教育文化の充実と産業の育成という二つになります。

橋小学校の改築計画ができておぼつたっております。定時制高校の専用教室と、これが整備拡充にも頭をなやましております。さらに欲をいへば、社会教育の拠点である公民館も欲しいと計画にとりくんでおります。しかし、これらの実行を決定するものは上野小学校屋体の建築でございます。おそろくこれが、三十五年の予算を決定することにもなります。

総額二億円に近い栄橋の継続工事も、なかなかたいへんな仕事で

でございます。仙田橋も永久橋にかけかえが予定されていますが、総工費約二千万円、本工事は冬になるかと推察されます。道路の舗装も上野方面に延長するわけですが、市街地の舗装以外は国費改装を請願中でございます。町道のジャリ敷や農道の維持、水落・沖立・三領の堤防工事も地元の協力で



伊白山神社にて撮影 友義 高橋

元朝の新雪

予定どおりにできる見込みでございます。災害も工事費がかさんで、ご本人はもちろんのこと、町もお金で苦しんでいます。幸い、困りもわたしたちの悲壮な願いをきき入れてくれました。国費災害復旧は特別扱いとして、九割補助が可能になりそうです。

産業なくしてわが町の発展はあり得ません。とくに稲作農業は穀倉川西町の誇りでございます。何としても技術管理を向上させ、営農の健全化にまい進しなければなりません。

ことしも開田ブームがつづきます。三千五ヘクタールにおよぶ松葉沢水系の開田は、その後順調に計画がすすめられており、また、根深の川端、千手の北原、赤谷の重子ヶ島などは本年から作付け可能となり、畑作が傾斜地に追いやられるのも、必然的な傾向といえるのかもしれない。

斜陽産業とはいえ、生産コストさえ下げればなりになりつつある。養豚・養鶏・養魚などの副産物も、つねに研究を重ねて永続するところに価値があります。

向といえるのかもしれない。斜陽産業とはいえず、生産コストさえ下げればなりになりつつある。養豚・養鶏・養魚などの副産物も、つねに研究を重ねて永続するところに価値があります。

ついでに、何はともあれ新しい年を迎えることができた。おたがいに「めでたい」といわなければならぬ。旧町村の衣を捨ててから、もう第五年度に入ったわけ。このしのが町がどう展開してゆか希望と期待に胸はふくらむ。

人間の生活が高度化されてくると、わたしたちはとかく暮らしの中にある良さを忘れて喜びを失いがちになってしまう。その意味で生きることに喜びを自覚させ、新しい良さを、そいでくれるのは新しい年だ。年頭に於いて、川西人の良さを伸ばすことを強調したい。となり近所がなごやかで心があたたかくなっている町。ここにたけなわは強くて素朴な、一万五千の仲間が住む。夫婦相和し家内円満、よく働き義理人情に厚い。信仰心が深く、祖先を尊び、とよりをいたわり、よく助け合う。保守的、伝承的な構えが除々にではあるが改革され、根強い因習を伸ばすことが、ことしの町づくりにつなげるからである。

ただ、かせぐに追いつく貧乏なしのたとえ、町のため力のかきり働きたい所存でございます。ここに「かわにし」を通じて所感を述べ、新年のあいさつに替えさせていただきます。

つつしんでみなさまのご多幸をお祈り申しあげ、本年も平和で、たのしく住みよい町であるように念じてやみません。

や部落のしくみも一段と民主化された。納税をきわめて当然のこととし、道路や公共物をよく維持管理する。町政の動向に敏感で何事にも協力するのは、政治意識が高まっていることの証左であろう。

子どもは町の宝として重視され、よりよい環境の中で、明るく健康に育っている。話し合い活動が活発で常識に富み、文化面への欲求がさかんだ。これは便いも良くなつた。教育に力がそがれ、青年婦人の自主性が尊重され、町外に発展飛躍する者があつたとたない。あらゆる面で生活の簡素化が叫ばれ、それが合理化されて生活水準が向上した。住居の改善がなされ、保健衛生の思想が普及し、年とりの魚よりうまいものは日常にくらでも口にできる。農事研究熱が旺盛で技術の交流が行なわれ、副産物の導入にも活気が見られる。が、長所もウラをかえせば短所といえる面が多い。この際、川西人の良さをよく検討自覚して、それだけの立場でこれを伸ばしてゆかなければならぬ。こまかく町を愛し、全住民が心を合わせて長所を伸ばすことが、ことしの町づくりにつなげるからである。

町づくり

長所を伸ばそう

施設の充実が先決

社会教育の強化も必要

教育長 杉本 春三 郎

明けましておめでとうございませう。昨年中はいろいろとご指導賜りましたことを厚く御礼申しあげます。本年も川西町教育が一段と進展するように、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

戦後の混乱から、民主的で文化的な国家建設をめざして立ち上がった学校教育も、時代の進運とわが国の現状にかんがみ、小学校は三十六年度から中学校は三十七年度から教育内容が刷新改善せられ教科書も全部変わることになりました。すなわち教育の目的目標を現実在即して、より効果的に達成するという立場から行なわれたものであり、一言にして申せば、世界の国々から世界の人々から、真に尊敬され信頼されるような実力と品位をもった日本人を育成するということに基づきるのであります。

改善の要点は、児童生徒の基礎学力の充実にあり、道徳教育を徹底し、地理歴史教育を改善し、科学技術教育を向上させ、もって情操の陶冶と健康な心身の育成を図ろうとするのであります。

今後はこの改善の精神にしたがって、教育の効果を向上させるための方途が当然考慮されなければならぬと思ひます。児童生徒の基礎学力を高め、科学技術産業教育を向上するためには、第一に施設整備の整備充実にあり、とくに中学校の分校について検討し、特別教室についてはその建築と施設

新しい年、一九六〇年。はげしい時がながれに一つのいきりがつきました。ことはあらゆる面で大きな転換にスタートするの感がふかいたのであります。

作る技術から売る技術へ

都会娘もあこがれる町に 高橋源治郎

反面、豊作を連続ヒットしながらも農家生活の景気はいつもマスコミの宣伝だけに終わって、農業所得と他産業所得の格差はますますひろらいていく現状であります。

「平和と豊か」が旗印の川西町が、合併後、各分野で着実に成果をあげていることはいへんうれしいことです。昨年は、米作り技術でもついに県一(個人、高橋喜久男氏、グループ、小林正治氏・小林正人氏・小林元一氏)となりました。しかし、この増産技術だけでは必ずしも経営が楽になるとはかぎりません。

そこで一九六〇年を機に川西町の産業は米だけでなく、あらゆるものを「作る技術」から、さらに「売る技術」に前進させて、所得をうんと飛躍させたいものです。米についてはすでに昭和の初期

を実現し、定時制教育の充実を図るとともに、中学校舎利用によるお互いの不便を解決せねばならぬと考へておられます。

学校教育とやらんで社会教育がいよいよ強化され、社会教育法施行十周年にあたる昨年、法の一部が改正されました。この結果、今後一、二年中に、社会教育主事を市町村に必ず設置せねばならないことになったのであります。

川西町教育が大きく発展するため、よりいっそうのご協力あらんことを、年頭にあたって切にお願ひするしたのであります。

「一手モチ」の銘柄で東京市場の人気を博した実績があります。川西町の立地性と町民性の中には、確かに県一、日本一の町づくりに要素をたくさんもっています。地球人が、お月様へ集団移動するという宇宙時代です。これらの化学技術でこの要素を掘り出し、これをはぐくんではけは必ず日本一の、住みよい川西町が出現すると信じておられます。

最近、農家の娘さんが農家にとつぐのをいやがる。とよきかさがれませんが、農村にとってこれほど悲しい現実はないと思ひます。

モンペ姿の東京娘が山王原で耕転機を運転し、赤いマフラーの大阪娘がお茶を飲み、五穀豊穡を手籠音に祈願する農村風景も、やがては訪れてくることでしょう。

現在の都市への反抗の言ではありませんが、東京娘も大阪娘もみんなあこがれて嫁に来たがるような、住みよい町を建設しようではありませんか。

(川西地区農業改良普及所長)

☆禁酒断行 “おれが買いにきても 売ったら承知しねえぞ”

一年頭の決意

七月耕地災害(農林保主官)の現地調査が終了しました。町費補助金(一、二五万)の割り当ては近日中に決定しますが、次の順序で採択する方針です。

①三十四年十二月末日までに復旧工事が完了したもの。②三十三年の被災地区で、復旧工事後完了後ふたたび(三十四年)被災した地区。③農業用施設(ため池、頭首工、水路、農道) ④農地

◆選管だより

◎基本選挙人名簿(昨年九月十五日現在で調製)が、次のとおり確定(十二月二十日)しました。この一カ年間の効力を有します。

川西町選挙管理委員会
総数(有権者数) 八四三一人
総数の 1-50の数 一六九人
総数の 1-3の数二八一一人

◎十二月一日現在で調製された農業委員会委員選挙人名簿は、一月二十日から十五日間縦覧されます。

◆災害通信：①

今度の科学の力ではどうすることもできない。宿命だとあきらめていた自分たちの町に、無雪道路ができるということは、まさに遠い国で成功した月ロケット以上の意義があるといっても過言ではない。△といつても、初年度のことにはテーストケースとして、やるだけやってみようというものだ。さうだから、地域も限られていて、どんなに大雪でも車道の交通を確保するというわけにはいかないというもろろんはじめから十分の成果を望むことはむりである。豪雪といつてもケタはずれの当地に、無雪道路の計画が現実のものとなつたというだけで、将来に無限の希望を持たせるに十分だ。△人類が月や火星に到達する夢も捨てがたいがその前にせめて川西町に完全無雪道路の夢を実現したい。(M)

ふるさと

新しい年の課題としては人それぞれに希望を抱負があることと思うが、われわれがその成果に最も大きい期待と関心を寄せられているものに「無雪道路」の計画がある。△「冬でもバスに乗れる」「雪の中でもラック便が利用できる」。これらがどんなにすばらしい意味を持つことではあるかということ、豪雪地に育った者でなければ理解できないことだ。交通機関の発達によって夏場の交通が便利になればなるほど、冬期交通のマヒ状態がやりに切れない苦痛の種となる。△しかも自然現象である降雪そのものは、たとえば、ペーリング海峡にダムを築いて海流条件を変えたりというような夢でも実現しない限り今の科学の力ではどうすることもできない。宿命だとあきらめていた自分たちの町に、無雪道路ができるということは、まさに遠い国で成功した月ロケット以上の意義があるといっても過言ではない。△といつても、初年度のことにはテーストケースとして、やるだけやってみようというものだ。さうだから、地域も限られていて、どんなに大雪でも車道の交通を確保するというわけにはいかないというもろろんはじめから十分の成果を望むことはむりである。豪雪といつてもケタはずれの当地に、無雪道路の計画が現実のものとなつたというだけで、将来に無限の希望を持たせるに十分だ。△人類が月や火星に到達する夢も捨てがたいがその前にせめて川西町に完全無雪道路の夢を実現したい。(M)

使われた一億五千万円

三十三年度の決算はこうだ

昭和三十三年年度一般、特別両会計の総額、歳入一億五千八百四十六万四千五百五十七円、歳出一億五千八百六十八万八千六百八十二円、前号に既報のとおり、第七回町議会定例会(十二月五日)で決算の認定が行なわれた。一世帯当たり計算すると、歳入五万七千三百三十二円、歳出五万四千八百四十一円、それぞれの使命をおびて合併第三年度の町づくりをそがれたわけである。ここにそのあらましをお伝えして、みなさんのご判断を仰ぐことにしたい。

決算のあらまし

一般、特別両会計とも、まずは平穩無事な決算であったといえる。決算総額のうち、学校建築などで一般会計から特別会計に繰り出した金が一千二千三万七千五百円あり、これらの重複した額を差し引くと、実質的には一億四千万円の決算額であったわけだ。

一般会計は六百万に近い残金で収支をつけたことにはなったが、これは相当額の支払い繰り延べがあったからである。

予算額と比較してどれくらいヒラキがあったのか、その主なものについて申しあげてみたい。

歳入面では、町民税が四十二万五千円、固定資産税が十五万八千円、電気ガス税が十五万五千円とそれぞれ決算増を示し、証明手数料(代書その他)も十三万六千円増加している。これとは逆に、国庫支出金の受け入れは五十六万五千円の減となったが、これは災害復旧費の国庫負担分がなかったことと、保育園の補助金が予算より少

なかったこと、などが理由である。歳出の面では土木費の二百一十円減が最も大きく、これは道路の改良工事費で支出減となった。諸支出金は百八十四万二千円の減だが、国保や他会計への繰り出しが少なかったからである。産業経済費の八十一万三千円減は、農林業振興費をはじめ各項目の予算残額を累計したもので、財産費の八十万円減は基本財産造成費であった。国保特別会計の歳入面では、国庫補助金が百四十一万八千円の増で

部	歳入	歳出	%
1 町民税	65,448,540	66,208,001	38.1
2 地方交付税	17,154,000	17,154,000	17.8
3 公立学校等	1,048,950	1,048,721	1.0
4 証明料手数料	290,720	426,260	0.4
5 国庫支出金	3,357,248	2,792,671	2.9
6 電気ガス税	1,888,602	1,905,701	2.0
7 寄附金	2,798,520	2,712,344	2.8
8 雑収入	4,344,157	4,344,157	4.6
9 国庫収入	440,000	512,578	0.5
10 分り金及員旅費	119,720	143,195	0.1
	96,890,457	97,245,628	

科	歳入	歳出	%
1 歳入	1,290,260	1,261,267	1.4
2 役場費	19,698,478	19,696,378	21.6
3 消防費	5,142,250	5,132,172	5.6
4 土木費	9,338,959	7,328,874	8.0
5 教育費	16,355,415	16,350,321	17.9
6 社会教育費	8,085,051	8,013,481	8.8
7 保健衛生費	2,203,770	2,194,975	2.4
8 産業経済費	10,268,930	9,453,820	10.4
9 財源費	1,786,420	985,420	1.1
10 統計調査費	246,830	225,545	0.2
11 道庁費	365,000	349,934	0.4
12 公債費	3,197,918	3,197,918	3.5
13 諸支出金	18,900,420	17,058,298	18.7
14 千円費	11,756	11,756	
	96,890,457	91,267,403	

なかつたこと、などが理由である。歳出の面では土木費の二百一十円減が最も大きく、これは道路の改良工事費で支出減となった。諸支出金は百八十四万二千円の減だが、国保や他会計への繰り出しが少なかったからである。産業経済費の八十一万三千円減は、農林業振興費をはじめ各項目の予算残額を累計したもので、財産費の八十万円減は基本財産造成費であった。国保特別会計の歳入面では、国庫補助金が百四十一万八千円の増で

一般会計

歳入 九七、二四五、六二八円
歳出 九一、二六七、四〇三円
差引残高 五、九七八、二二五円

新農山漁村
歳入歳出 三、七二九、三三六円
産業育成資金
歳入歳出 一、五二二、二二二円
学校建築
歳入歳出 二〇、二六一、四八〇円

歳出の内わけ
◎上野小学校改築費 一一、五二六、五五五円
◎白倉小学校新築費 六、二二六、二二九円
◎橋小学校建築費

国民健康保険

二、五一八、八二六円
歳入 二〇、二六七、六五五円
歳出 一九、四四五、四五九円
差引残高 八二二、一九六円

主な歳入
保険料 九、七五五、七四七円
国庫補助金 七、二一一、四五五円
繰越金 一、七七七、八〇四円
繰入金 一、四七二、六五三円

主な歳出
役場費 一、六七八、三四九円
保険給付 一三、三八二、三三三円
繰入金 二、四七二、六五三円
保健施設 一、〇五六、九二二円
諸支出金 七九七、〇五三円

千手診療所
歳入 八、三七七、九三七円
歳出 八、三二五、八七七円
差引残高 五二、〇六〇円

橋診療所
歳入 七、〇七〇、三〇九円
歳出 七、〇三八、九一九円
差引残高 三二、三九〇円

戸籍の窓から

12月分

◆うぶ声—御すこやかに

星名 亨 沖立 昭太郎 二男
高橋 市朗 東善寺 孝一 長男
斎木 秀夫 山野田 甚平 三男
清水 孝志 木島 健一 二男
数藤美奈子 学校町 光四郎 二女
相馬美代子 木落 友平 三女
羽鳥 光江 木落 昇二 長女
村上 靖 仁田 利恵 一男
滋野 幸治 野口 貴久 一男
羽鳥 義仁 野口 勇作 一男
滋野 政徳 野口 義雄 一男

たかき—御円満に

若山 芳子 新町 孝吉 一女
星名 伸行 星名新田 力雄 三男
齋木 清美 室島 保 一女
南雲 弘 中仙田 昇 長男
中村 清志 岩瀬 寅松 長男
佐藤 節子 藤沢 清隆 三女
小川 美雪 岩瀬 益栄 二女

◎小林 英一 中屋敷
◎高橋サチ子 坪山から
◎柄澤 寅由 沖立
◎松本 サト 沖立から
◎西方 毅 中島町
◎阿部 春見 宮城県から
◎羽鳥 昭一 中央町
◎飯塚 シズ 十日町から
◎高橋 英一 伊友
◎児玉 タミ 稲葉から
◎星野 東助 永久公舎
◎桑原富美代 十日町から
◎小野塚 深 山野田
◎蔵品 ミツ 稲葉から
◎数藤 進 沖立
◎井澤江津子 四日町から
◎数藤 勲 沖立
◎徳永 和 山本から
◎星名佐一郎 高原田
◎中島 光 稲葉から
◎押木 秀治 発電所通
◎児玉 キン 稲葉から
◎野澤 幸作 野口
◎田村 玲 十日町から
◎山田 弘一 仁田
◎高橋 浄子 伊友から
◎丸山 泰治 原田
◎櫻井 康子 長岡市から
◎丸山 勇 四十歩
◎丸山 アツ 下原から
◎上村 春夫 上野
◎鈴木テレイ 加茂市から

昇天—御いづを祈る

馬場 光雄 元町
松本 栄子 荒川町から
松澤 良平 上野
新井 和子 長野県から
小海 益男 小根岸
清水 セツ 下平新田
小海 正雄 小根岸
小海 トク 小根岸から
丸山 信夫 新町
水落 久子 仁田から
上村 英治 上野
田口 アサ 木落から
太田 一雄 田中
山田 公子 仁田から
茂野 作一 室島
佐藤 ヨリ 松代町から
齋木 良之 高倉
福島 夏子 小国町から
岡島 晴雄 大白倉
樋口 ノリ 小千谷から
長谷川常夫 赤谷
若山 一子 新町から
登坂 求 岩瀬
高橋トシエ 室島から

：貸し衣装【千手】ルポ...

すでに三七二万円がうく

喜んだ花嫁さんたち

千手地区に貸し衣装が実現したのは昭和三十年九月のこと...

話し合いが 動機で実現

この起りは昭和二十九年の秋、当時の青年団(保坂国夫団長)と婦人会(田辺キイ会長)が「親の話をきいてみよう」という企画で、話し合いの機会をもったことにはじまる。

このとき、なやみとしてはまだされた五十四項目の問題点が、「貸し衣装をほしい」という共通したものにしぼられ、これを実現するため二十数回の会議が開かれて三十年の春に千手町生活改善促進委員会(保坂国夫会長)が結成された。そして、当時の町(中村社



一部にはあつた 反対の声

しかし、いっぽうでは「十分に利用されるだろうか」というしんばいがあった。というのは、「ハイカラなことを口にしてもむたなこつた」といった分子や、表面は協力するかに見えても、カゲでは

「オラは自分勝手にするぞ」とふれある人たち、習慣からぬけられずに白眼視するオヤジ層などがかなりあったからだ。

このため、役員がビタイを集めて思案にくれたことも、いくたびかあったようである。

利用率は 九五パーセント

ところがさにあらず、いざ貸し出しをはじめるとわれもわれもの盛況ぶり。今では「利用するのがあたりました」という考えかたに変わった。みんなに喜ばれながら九五パーセントの利用率を示してくるのである。ちなみにこれまでの利用件数をのぞいてみよう

吉町長 や議会(高橋茂雄議長)でも趣旨に賛同してくれ、念願の花嫁衣装二組(費用は町が負担)を買ったことができたのである。このほか、町内からも自発的に維持管理費(保存用のダンスなどが寄付された)りして、文字どおり町ぐるみの協力体制で実現したものであった。

新しい衣装を 貸し出し料

この貸し衣装は千手を対象に貸し出されるわけだが、合併後はほかの地区からも希望者があって断わるに気の毒な場合もある。したがって千手地区で重複しないかきり、これを貸し出すこともあり得るわけである。

現在、中央公民館には四組の貸し衣装が保管され、千手地区婦人会(大塚晶子会長)で管理しているが、三組目を三十二年秋に、四組目を昨年秋に、いずれも貸し出し手数料から買入れたものだ。借料は次のようになっていたが、これは維持管理費のほか、新しい衣装の購入費にあてられている。(貸し出し期間はいずれも三日

間、カツコ内はオビだけの借料) 三〇年のもの 五百円(百円) 三二年秋、八百円(二百円) 三四年秋、一千円(三百円) 拳式の改善にも

新生活の動き

いま、花嫁衣装一組(江戸つまオビ、じゅばん、えり、たぐり、はこせて、せんす、オビじめなど)をそろえると、最低三万円はかかる(某呉服店の話)という。だから、すでに三百七十二万円の金が節約できたことになる。それはかなりではない。これを契機に公営結婚第一号(高橋宏さん夫妻)貸し衣装を使ったが生まれ、また、自宅で行なわれる結婚式にもこのかたがとり入れられるようになった。さらにまた、仙田でも公営結婚(赤谷いずみ)が生まれ、橋(農協婦人部)にも貸し衣装が実現して、それぞれの立場から明るい町の建設をめざしている

もつと農業の記事を

毎日忙しい中を、「かわにし」の発行で苦勞さます。号を重ねるごとに向上してゆくのがわかります。何かとたいへんなことですが、それが増ページをするか、それができなかつたら連載ものを休むかして、もつと農業関係の記事を多くしてください。ご一考をお願いいたします。(下平新田、清水二郎)

町の声

きよわんの災害はひどいものでした。そこで「かわにし」にも

のである。

(写真)貸し衣装を着た花嫁モデルは役場職員(〇子さん) 保坂公民館主事の話

町当局の理解と、一般の協力があったからこそ実現できたわけです。だれかがやってくれるということではなしに、「自分がやらなければ幸福はつかめないのだ」ということを、みんながよく自覚してとりくんだからでしょう。

幸い新生活運動のモデル地区になったことでもあり、これからも手をとってすすみたいと思っております。

庁内めぐり (13)

税務係の巻 その二

・水品忠雄氏(三領)は、徴収と納税組合の育成につとめる。未納もつとこれらの記事を載せてください。橋農協で発行する「農業たちばな」に、災害特集(座談会)が掲載されたためになったので提唱します。最近の開田ブームはいへんなものです。土地改良のこつとや農業技術的な記事を多くしてください。(橋、藤巻生)

◎係から：せつかくのご意見ですが、本紙は農業関係紙でございます。農協で発行する機関紙や農業改良だよりなどをよくご利用ください。新年度から川西町農政情報、農業委員会発行、二カ月おきで、これらの記事をとりあげようとお願ひしました。

者からイヤミをいわれても、いっこう気にしない性格はこの人の良さだぞう。トンチがよくてダジャレがうまくて、ノンビリした愛妻家だという話。これからの手腕を期待される人である。

・小川益栄氏(岩瀬)は地籍のペテラン、責任感旺盛で事務処理も完全に近い。仙田村青年団長の最後を勤めて、連合体組織の道を開いてくれた人だ。不言実行よく後輩をいっつくしむが、虫のいどころが悪いと方せん強くなる。美男子で人づきがよく、また、踊りのセンスイとしても親しまれてたれからも好かれるしモデル。

・小林 力氏(中仙田)は諸税、軽自動車税の主任、いささかデリケートなエンジニア型の人だ。おのれの職務をよくわきまえ、仕事もきれてムラのないハンサム。ラジオや自動車(大型免許)など技術的な手腕もあり、大いに将来を囑望される。

・中村義雄氏(木島)は固定資産税の主任、見るからにたくましさを感じさせてくれる人だ。よく勉強して政治経済にも明るい。職組の名書記長として二期をりっぴに勤めたのも氏なればこそ、その手腕は高く評価される。某氏にいわせるとチャッカリ型、パパとなる日かもう近いようだ。

・上村カウさんは上野の娘、よくできてまじめに勤める人だ。健康で明るく、すべてを善意に解しゃくできるのはこの人の良さだろう。心はやさしくまやかに、みんなにも好感をもたれて笑い声をきかせる。趣味は読書とあみもの。心配性だがよくねむるといふ。

心はやさしくまやかに、みんなにも好感をもたれて笑い声をきかせる。趣味は読書とあみもの。心配性だがよくねむるといふ。

国土調査の話：①

目的は役にたつ台帳

高橋英雄

国土調査の必要性

経済的な変動のほけしい世の中... 国土調査法というものは、土地にも人間と同じように...

もこの台帳が不備であつたら... 新編県では昨年からの仕事に着手し、川西町でも...

自分のものかと思つていた土地に... 他人が入ってきたようなとき、果たして登記簿が証明してくれるでしょうか...

現在登記所にあるものは、明治初年に税金を取るために検地をしたときのものです... 技術もへたなときに行なつたものですから正確であるはずがありません...

国土調査法というのは、土地にも人間と同じように... 戸籍をつくり、地図も土地の地球上の位置を幾何学的に正しく表わすという目的です...

新編県では昨年からの仕事に着手し、川西町でも... 調査をはじめることになりました。みなさんもすでにご承知のことでしょうが、町内のごまごま...

「先生こちらへい」... 入って... 腰をかかめて入れても... 小さいあかりが、みじでしようか...

ある女教師の手紙

くはつらうふ笑っていました... カイは心の冷たい女王のとりこになりましたが、ゲルダの愛の力で雪のお城から帰ることができた...

一筆地調査

川西町で行なう国土調査は地籍調査とよばれております... 地籍調査、一筆測量、面積測定、地籍図および地籍簿の作成などにわかれております...

いしくみになっていきます... この工程のうち、みなさんに直接関係のふかい一筆調査について述べてみましょう...

へき地教師の楽しみは乏しいけれど、こういう子どもたちが相手です... 夢多く働いていきたいものです...

かわい女俳壇

筆行なうわけでありませう... (調査図)をもとにして、一筆測量を行なうわけでありませう...

雪の壁のくぼみ、その小さなたたき... 雪の壁のくぼみ、その小さなたたき、ななろうそくが置いてあります...

雪の壁のくぼみ、その小さなたたき... 雪の壁のくぼみ、その小さなたたき、ななろうそくが置いてあります...

書いて渡します。それを棒切れに... はさんで、該当の地番ごとに見やすいように立ててください...

赤谷 仙子... 何かにと行事をわたり初湯かな... 茅野市 風来坊...

柏崎 玉水... 野口 恵風... 野口 寅夫...

○初日記書いて二年の文字太く... ○牛売ってしめ縄のみの賑かな... 織り初めのこだましてわりの山の家...

○印を入選句といいたします... 月はいつもより多くの投句があり力作が見られました...

○もうあがる世論こそ... これらを解決する力まであるといえましよう...

○町外在住のみなさま... ふるさとはいま一面の銀世界です... 年二つふえたせいでしよつか...

○町外在住のみなさま... ふるさとはいま一面の銀世界です... 年二つふえたせいでしよつか... とほほろく清くさやけき山川の変わらすたえす常にもがもな